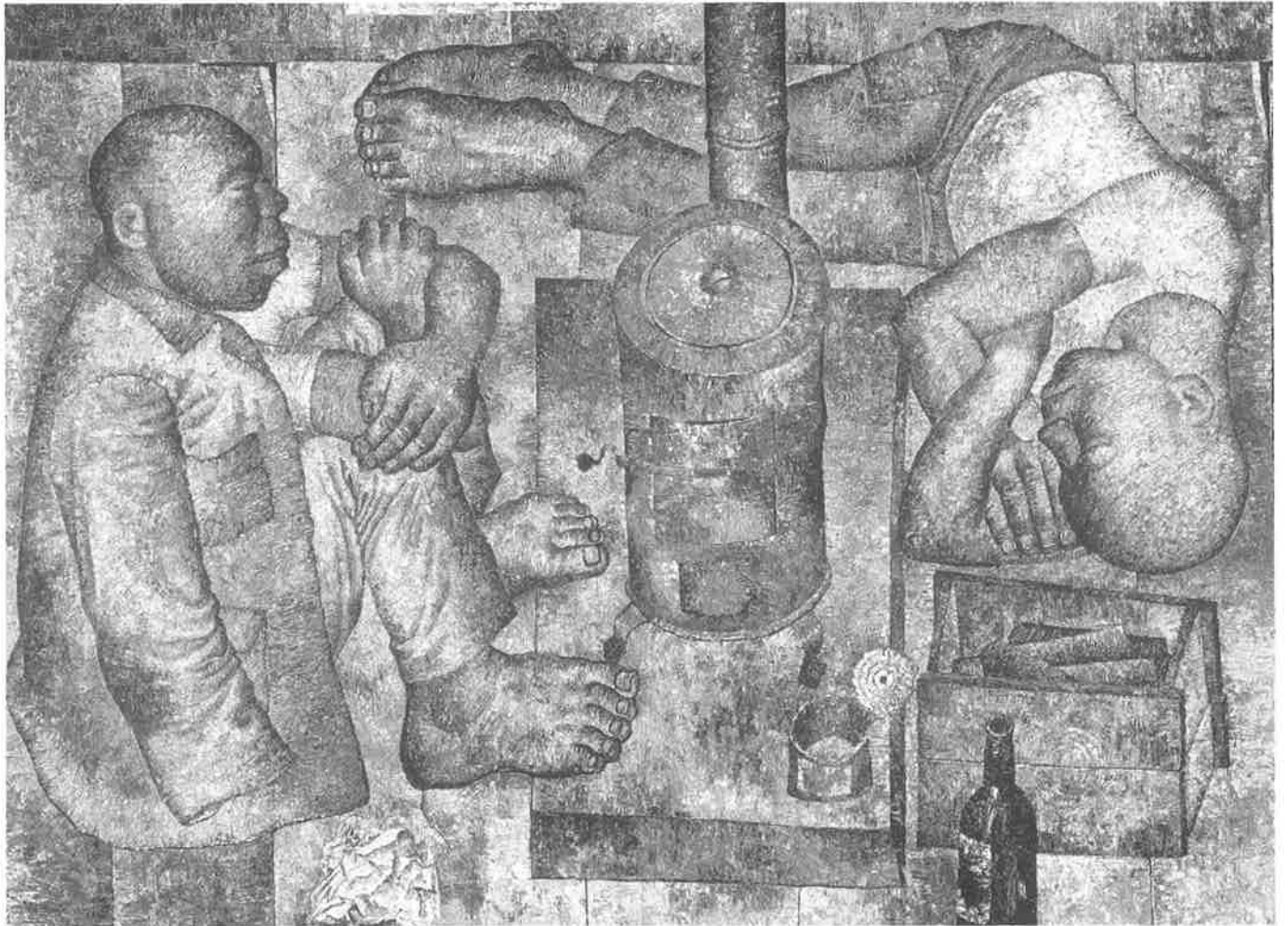




神田日勝記念館開館10周年記念事業

「飯場の風景」感想文 入賞作品



表彰式
平成15年10月18日(土)
鹿追町民ホール<ミュージカルホール>

主催/神田日勝記念館10周年記念事業実行委員会、
神田日勝記念館、北海道新聞社
後援/鹿追町、鹿追町教育委員会、神田日勝記念館友の会

◆小学生の部

- 最優秀賞 北海道教育大学教育学部附属旭川小学校6年
- 優秀賞 美瑛町立旭小学校3年
- 優秀賞 美瑛町立旭小学校4年

上西 希生
寺林 拓人
草野 有香

◆中学・高校の部

- 最優秀賞 清水町立御影中学校2年
- 優秀賞 北広島市立緑陽中学校2年
- 優秀賞 旭川藤女子高等学校1年

西 衣舞姫
中島 佳子
浅原 恵美

◆一般・学生の部

- 最優秀賞 石狩市
- 優秀賞 旭川市
- 優秀賞 帯広市

葛西 庸三
上西 紀子
志田 哲夫



「飯場の風景」

北海道教育大学教育学部附属旭川小学校 六年

上西 希生

ぼくは四年生のとき馬の絵を描いて神田日勝記念館に出し、入選したことがある。でも神田日勝という画家がどんな絵を描く人なのか知らなかった。

図書館で神田日勝の画集を借りて開いてみるとその中に描かれたものは馬や牛、労働者、ドラムカン、農場の風景と身近なものだった。どれも力強い絵だった。この「飯場の風景」もいっしょに働いていた人を描いたのだろう。すぐでかい手と足は力仕事をしている男らしさが出ている。絵の色がモノクロの写真みたいだけど、ストローだけが違う色をしている。ストローがあかあかと燃えていて、他は時間が止まっているようだ。二人の男はうでを組んで何を考えているのだろう。考えこんだまま、やっぱり時間は止まっている。ぼくはストローにすいこまれそうになる。

神田日勝は農業をしながら絵を描いて、「三十二才という若さで亡くなったという。十勝の農地にどつぷりとけ込んで、すべてをキャンバスに描いて死んでいったのだろう。長生きしていればもっとたくさん作品を残せたのに残念だ。日勝は北海道が大好きだったんだと思う。どの絵も北海道のおいがするからだ。死んだ牛も馬もありのままをこまかく描いている。日勝が飼っていた牛や馬だったのだからか。ぼくは現実から目をそらすず描く日勝は強く、たくましいと思う。絵が堂々しているから見る人の心をきくと感動させるのだ。

「飯場の風景」

美瑛町立旭小学校 三年

寺林 拓人

山の中の小さな飯場はガサガサしている。すわっている人もお腹がすいて「グーツ」となっている。

ジャンパーを着ている人はさむくてすわっている。すわっている人とねている人は働いてあせくさい。さむくてうでを組んでストローの前にいる。

でもストローの周りはあたたかい。木の燃えるこげくさいにおいがする。

お酒の入っていたビンが、お酒くさい。空いたかんづめはくさい。二人の頭はあせくさい。足はどちらもどろくさい。この絵を見ているとかわいそうな感じがした。

「飯場の風景」

美瑛町立旭小学校 四年

草野 有香

私は、この絵を見て体育すわりをしている人から汗や土のおいがすると思います。たくさん仕事を汗をかいていると思うし、土をさわっているから手や服に土がついていると思います。

たくさん仕事をして疲れているのに、飯場の中はとても寒いと思います。木で作った家のすき間から寒い風がピューピュー入ってくる冬なのにTシャツでうでを組んでねている。ストローの中は木が燃えてパチパチ音をたてている。ストローの周りだけは、とてもあたたかいと思います。

二人はかんづめしか食べていないので、おなかがすいておなかがなっていると思います。それにまくらもない。ふとももない。でも一人は疲れていびきをかいてねていると思います。

かんづめのくっさつたにおいやお酒のおいもしていると思います。

見ているととても寒い気持ちになりました。

「飯場の風景」感想

清水町立御影中学校 二年

西 衣舞姫

「神田日勝、イコール馬の絵」と自分勝手に結びつけていた私。

しかし、「飯場の風景」を見て、その考えは一瞬で消え失せた。

—何だろう。何故だろう。

この絵を見て、すぐに疑問が生まれた。私は、神田日勝が何を伝えたかったのかを絵を見ながら考えていった。

二人の人を見てみると、全くの同一人物に見えてくる。一人は寝ていて、一人は静かに何かを見つめながら考え事をしてるみたいだ。私は、絵を見ていくうちに、「これは一人の人だ」という結論に至った。私が考えるに、寝ている人は肉体であつて、考えている人はその人の心理とでも云えようか。

私は、絵の色が薄暗いこともあつて、この「飯場の風景」はその頃の神田日勝の想いを表した絵だと感じた。だから、もう一人の人を描いたのだと思ひ、その本当の思いに絵を見て気付いてもらいたかったから、題名を二人の人

人ではなく、「飯場の風景」にしたんだと、私は思った。

私は、一つの絵を通して、「伝える心」や「絵から感じとる事」を考え直すことが出来たし、神田日勝を考える事が出来たので、「飯場の風景」という作品に出会えて本当に良かったと思つている。これからも、神田日勝の多くの作品に出会っていきたい。

音のない世界

北広島市立緑陽中学校 二年

中島 佳子

当たり前のことだけど絵に音はない。だけど音が伝わってくる絵はたくさんあつて音からいろいろなことを感じられる。

この絵を見て私には、音が伝わってきた。会話なんかはわからないけれど、静かで、冷たくて、寒いけれど、なぜかどことなくあたたかみがある音が伝わってくる。少し淋しさがある音だけどもきれいで澄んだ音が伝わってくる。

そして、この絵の登場人物二人の表情。無表情かとも思うけど、よく見るとその中でもいろいろな音を伝えている。貧しい生活の食事。全然満足していないけれどそれを口には出さない厳しさの中に優しさがある不思議な音。

ほかに、風の音や火のこの音も真つすぐに伝わってくる。空いている缶詰めの缶やビン、まき、くしゃくしゃにまらまった紙などもやわらかい音を伝えている。

これらのたくさんさんの音が上手く調和しているからきれいで澄んだ音を伝えることができるのだと思う。この音から登場人物の想いや情景、季節、いろいろなことを感じることが出来る。

絵は音のない世界の一つだけと見方や書く人の想いによつて音は伝わってくる。そして、この絵からはたくさん音の音が伝わってくる。それは作者の神田日勝が強い想いを伝えようとしているからだと思う。本当にいい音が伝わると絵だと思ふ。

寒くほどの孤独感

旭川藤女子高等学校 一年
浅原 惠美

「孤独」絵を見た最初の感想である。二人の男性は話も交わさず、沈黙のまま狭い部屋で過ごしている。真ん中にストーブがあるのに、とても寒々としている。

この絵は、戦争前後の労働者の様子を描写したものだろ
うか。同居するのがあたり前だと思ってきた家族と別れ、
あるいはどのような人生の転機があったのか、彼は一人
孤独に浸っている。座っている男の目線の先には、きこつと昔
の思い出が写しだされているのではなからうか。

毎日仕事に追われ、もう動けなくなるくらいまで働か
されている姿が目につく。それなのに、食料の痕跡が缶
づめとビールびんだけなんて……。これでは毎日生きること
が精一杯な感じだ。そんな日々の生活のどこに楽しさがある
のだろうか。この絵を見て切なくなつた。仮に残された
家族がどこか空の下にいるとすれば、絵の中の男はこれか
らもずっとその追憶の世界を思い出しながらくに違いない。
でもあるいはひよつとしてどこかに再会の可能性を
求めて生きているのかもしれない。そうでもしなければ、
この人の悲しみに包まれてしまった人生は、救いようが全
くなくなってしまう。

つい何十年前か前の日本には、こんな暗い時代があつたん
だと思う。今生きている私は、何と自由のない贅沢な生
き方をしていると思う。今の生活をありがたいたいと思いな
がら、私はこの絵のもつ重さを味わっていた。

生きる力・鎮魂の詩

石狩市
葛西 庸三

神田日勝が描く、激流で磨かれた玉石のような頭と
武骨な手足を持つ男を見ると、私はその像を通して苦難
に満ちた北海道開拓の歴史を想起する。

激冬の中で裸足の両足に食い込む鉄の鎖と重りを引
きつづり、背中を鞭打たれ、呻き倒れて線路の下で眠る男
達。日中でも暗い原始林の中で太陽を仰ぐこともなく、
腕ついで伐採し根を掘り、笹を焼き尽くして種を播き、
果ては冷害と凶作と貧困に喘いだ先達。

血と涙と黒々たる屍の中で拓かれた北の大地の重い星
霜の呻きが、今、「飯場の風景」の中に脈打っている。私は

その声を聞く。

薪ストーブが赤く燃えている。年の瀬が近いのだろうか。
二年か三年毎に襲う冷害と凶作の狭間で生活の糧を求
める二人の男は、重い星霜の歴史を背負いながら、それに
耐え、懸命に生きようとする。それは、太い首や節くれだ
つた手、部厚い特大な足、どつしりした体格から発散する
生気が、その意欲を象徴している。正に秘められた意志
だ。

体を直角に曲げて寝込む若、男の軽い軀が聞こえる。
東の間の軀た寝、家族の夢を見ながら疲れを癒し明日へ
の英気を蓄えている。

上着を羽織っている男は寝ているのではない。首と背筋
を伸ばし、しっかりと組んだ腕、ストーブ台に乗せた逞しい
両足の指は大地に食い込み、全身に力強さが漲っている。
これは瞑想の像だ。男は思索している。

大きな柏の根株を掘り起こし笹の根を引き抜いて、豆
や麦を播きじやがいもを植えた。

冷害が襲い凶作となつた。重む借金。苦勞して拓いた
大地での再生を模索する。

瞼の裏に妻と子ども達の、ひっそり待つ姿が浮かぶ。仕
切り直した、と腹を決める。

瞑想する男の意志は、ストーブ台に乗せた両足でしっ
かり大地に立つ。太い首、真つすぐな背筋と逞しい手と腕
と足指に、明日へ向かう男の気魄が静かに満ちてくる。

この瞑想する男と対峙していると、私の心の中に一つの
声が聞こえてくる。

それは、大きな柏の根株や笹の根が残る暗くなった畑
の中にしやがみ、今にも殻を破って大地を突き抜け発芽
する生命の神秘に満ちた黒土を撫でながら

「明日あたりかな、音が聞こえそつだ」
とミサ子夫人に囁く神田日勝の声だ。

「飯場の風景」は、人の心の奥に生きる力を与える、北
海道開拓の鎮魂の詩だ。

「飯場の風景」から

旭川市
上西 紀子

絵が重い。というより、絵の中に出て来る人が石のよう
に重そうだ。ガツリとした体にかつい手、こつい足に坊
主頭、モノクロ調のこの絵の人物は小さなストーブで暖を
とりながらいつた何を考えているのだろうか。一人はうず
くまり、無心のようにでもあり、途方に暮れてため息をつ
いているようにも見える。もう一人は腕を組み、考えなが
らも昼間の労働で疲れきつて眠ってしまったのだろうか。
薪ストーブはパチパチ燃える、ゴトツと音がしてストーブの
中の真赤な薪が転がる。二人を暖めるために薪は燃える
「暖かい」それは北の国にとつてなくてはならない体と心
の寄りどころだ。

神田日勝は農民画家だつたという。自ら農業を継ぎ、
農作業をしながら絵を描いた。土を耕し、種をまき、秋
の収穫を期待しながら短い夏を過ごす。しかし十勝の気
候は良いとはいえず、冷害や台風にさいなまれて実りの
ない秋も多かった。秋、今までの労働は何だったのだろう
と考えているうち、だめおしをするように厳しい十勝の
冬がやって来る。日勝はそんな苦しい想いを何度も経験し
たにちがいない。それでも生きていかなければならない。
そんなめに逢つても春にはまた種をまくのだ。農民はど
うあがいても勝てない自然にもて遊ばれながらも、地道
にもくもくと労働を重ねていかなければならない。農
民として生きていくには、大地に根付いたしっかりとした
体と心が必要なのだ。そうこの絵は語っているのか。そし
て絵を見たとき感じた重さは彼らがこの北国で農民と
して生きることの重さだと思ふ。

この絵が描かれたのは私が三歳の頃だが幼い頃の記憶
の中にこんな飯場の風景があつた。私の祖母は飯場の飯
炊きをしていた。私はそこにしよつちう遊びに行つてい
た。男ばかりが集まり、ガツガツと飯を食い、酒を飲み交
わしていた。そして疲れるとどこでもゴロリと横になりい
びきをかいて眠ってしまう。ストーブは炭鉱が近かつたの
で、石炭ストーブだつた。今思えば、出稼ぎに来ていた労働
者達は私を見て自分の娘を思い出していたのだろうか。皆、
私を可愛がつくれた。この絵を見るとあのときの労働
者達が絵の中にいるような気がする。淳朴で優しい男
達が絵の中でしっかにストーブにあたつている。この絵が
とても暖かな絵に見えてきた。

「飯場の風景」感想文入賞作品

神田日勝の「飯場の風景」を見る

帯広市
志田 哲夫

昨日の雨は、今日は雪まじりときたまもんだ。あーあ、この分では、今日も仕事は休みだべ。昨日はいい骨休みみたっ
たよな。

だけども、こう二日も休みが続けば、こたえるつて。先
ず金銭が無くて、この先が心配だ。昨日は帯広さ行つて、
ていっばい遊んで来たから、俺も向かいの奴さんもおかけ
で今は一文なしだ、もう鼻血も出ないつて。

したから二人してこうして、ルンペンストーブを抱こし
て、寝てるしか能がないつて訳だ。

奴さんは粹で上衣をハオッテいるのではないぞ、背後か
らシヤッコイ隙間風が入つて来るから、それで寒さをしの
いでいるのさ。

おかげでこの俺は奴の陰になつていて、暖いというもん
だべ。

俺が絵描きの先生よ、灰皿(缶詰の空き缶)に吸殻の一
本ぐれい、描いてけでもよかつたべ、全面禁煙とはチョッコ
シ手回しのいいこつてないかい。もつともそのせいでこの部
屋のご清潔なこと。夕べは確か焼酎しか飲まなかつたのに
朝みるとなぜかビール瓶があるでないの。

これも、酎のビンじゃ絵になんないという先生の嫌味だ
べか。

みろや、俺達の手や足の大きい事、そりゃあ年から年中土
くれと喧嘩こいでいるから当たり前の話だけんどよ、なん
とも土臭い絵になつてるなあ。仕方がないか。

土臭い絵といえぱずつと先、外国の偉い先生が描いた「
馬鈴薯を喰べる人たち」というコキタナイ絵を、何かの本
で見、俺はブツガゲタもんだ。

あんなミッタクナイ農民なんか見た事もねい。あんな
真黒い絵どこさ飾る気だべ。

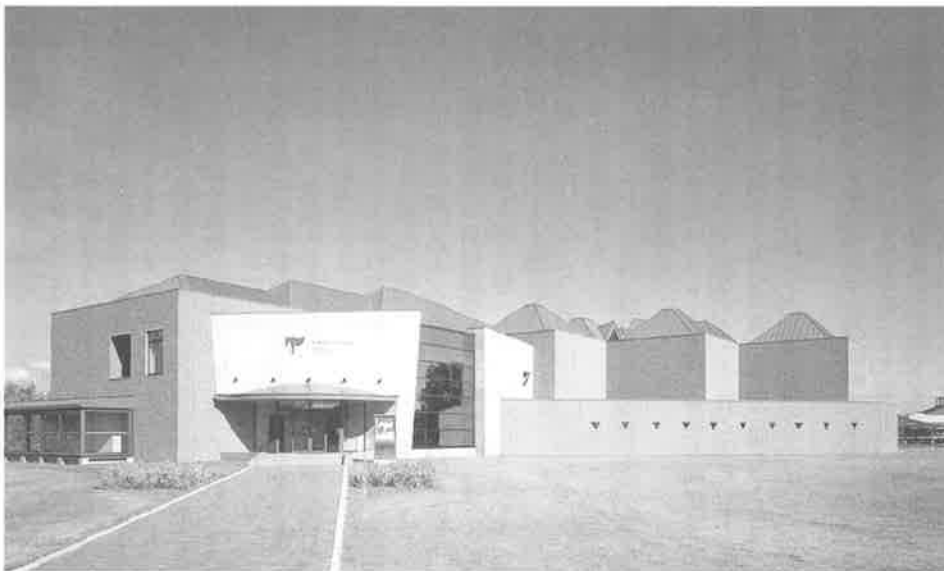
そこさ行くとさすが俺達の先生は、この絵に赤茶けた
色を使つてくれたんで、明るくチョビット暖かく描けてい
るでないかい。

これだば、ホテルのロビーとまではいかねども、町の勤勞
者センターの真正面にデエンと飾れるというもんだべ。

だけんどよ、先生よ。

欲ゆうでないけど、もうチョッコシ俺達の部屋を大き
く描いてけでもよかつたべ。

俺がくの字になんかならないで、せめて足をまっ直ぐ伸
ばして寝られるくらいによ。



「飯場の風景」感想文応募作品数

- 小学生 18点
- 中学・高校生 52点
- 一般・学生 87点

合計 157点



神田日勝記念館

KANDA NISSHO MEMORIAL MUSEUM of ART

〒081-0292 北海道河東郡鹿追町東町3丁目2 TEL.01566-6-1555
HIGASHIMACHI-3 SHIKAOI KATOGUN HOKKAIDO JAPAN